

1 学校教育目標	
○教育目標 ○教育スローガン ○教育方針	<p>「高い志を持ち、社会に貢献できる魅力ある人材の育成」 「志高く、日々前進」</p> <p>① 落ち着いた生活を過ごすことのできる、健康な心身を育成する。 ② キャリア教育の推進により、生徒の進路目標を達成する。 ③ わかる授業、主体的に考える力を育成する授業、個に応じた学習指導により、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。 ④ 命を大切にすること、社会奉仕や公共の精神など豊かな心を醸成する。 ⑤ 規律ある授業および集団生活を推進し、人権を尊重する心、共生の心を醸成する。 ⑥ 他者への思いやりの心、他者の個性を受け入れる心を育成し、いじめや差別のない学校づくりを推進する。 ⑦ 特別な支援を要する生徒に対しての全職員共通理解のもとでの取組により、計画的、組織的な適応指導を推進する。 ⑧ 幼・保、小・中学校・地域との交流を促進し、学習成果を地域等の中で活かすことにより、地域及び地域産業における学校に対する理解をより一層促す。 ⑨ ものづくりや命、自然との触れあいをとおした、喜びと感動のある実践教育を推進する。 ⑩ 社会のグローバル化に対応できる人材育成を進める。</p>

2 本年度の重点目標	
<p>① すべての教育活動における、課題解決の推進と危機管理の徹底 ② 魅力ある生徒、魅力ある学科、魅力ある学校に向けた取組の推進とその発信 ③ いじめ、差別のない学校づくり ④ 特別な支援を要する生徒への支援体制の構築と取組の推進 ⑤ 教職員全員の協力による研究指定校としての充実した取組 ⑥ 掃除や整理整頓が行き届いたきれいな学校づくり ⑦ 校務（事務）処理の効率化の推進</p>	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	教育目標及び重点目標の周知・理解	職員、生徒、保護者の理解度 95 %以上	職員会議や全校集会、PTA総会、広報誌、HP等で周知	C	教育目標が関係者に理解されていると回答した職員は 77.8 %であった。保護者では 87.8 %が理解していると回答したが教育活動の中学生等への周知については 59.8 %にとどまった。
	生徒募集	募集定員の確保	各学科 30 名以上の志願者確保	中学校訪問や体験入学等などの募集活動とHPの充実	C	募集活動を積極的に行った。前期選抜では昨年より 15 名多い志願者数となったがどの学科も 30 名以上には到達していない。
学力向上	確かな学力の育成	基礎学力の向上	確認テストでの合格者が 2 回目まで 5 %増加	学習教材「一日一善」を活用した基礎学力の向上	B	合格者が1学期 11 %、2学期 6.5 %増加した。少しずつだが基礎学力の向上につながっている。今後、学力の定着が課題である。
		知的好奇心の喚起	学ぶ楽しさや興味関心が高まる授業の展開 学習評価の妥当性や信頼性等の向上	研究授業に全員が 1 回以上実施または参加 指導と評価の一体化を目指し、学期毎に成績教科会を実施	B	研究授業に対する意識は高まってきている。授業を振り返る機会となり、各教科で工夫を凝らした授業が展開された。実学では失敗から学ぶという観点が興味関心につながった。
		能動的学習の推進	課題研究を中心とする主体的に学び、考え、実践する	総合的な学習の時間や課題研究を中心に全教科で能動		各学科の課題研究は実践できている。科目間、教科間の連携をはかるともっと深

			授業の展開	的な学習を推進 仮説、検証、振り返りの一連の学習活動の浸透	B	い学びができる。 未来探求は主体的な活動まではあと一歩である。
キャリア教育 (進路指導)	組織的な進路指導	計画的な進路指導	進路目標達成に向けた個別指導 基礎学力診断テストD3の生徒-30%	教務部と連携した基礎学力定着の取り組み 基礎学力診断テストや「登竜門」の活用と振り返り学習	C	基礎学力定着のための学習に熱心に取り組む生徒が増えている。D3の生徒が1年生は-16.7%、2年生は-4.4%であった。
		進路意識の向上	個人面談の実施 総合的な学習の時間の活用 進路未定者-10%	家庭との連携や個人面談、三者面談による生徒の進路希望の把握 「進路ナビ」の充実と活用	C	「進路ナビ」の改訂が進み内容が充実した。進路未定者数は1年生8名、2年生6名で、減っていない。
	勤労観・職業観の育成	自己実現への意欲向上 キャリア教育の充実 個々の適性に応じた進路選択	進路講話の2回以上実施 学習環境の整備と情報提供の充実	職員による講話や外部講師による進路ガイダンスを実施 進路資料の充実と資料閲覧室の活用促進	B	外部講師による講話は生徒への刺激となっている。地元就労促進のための取り組みも外部機関との協力の下進んでいる。
生徒指導	規範意識の高揚	校則の遵守と基本的な生活習慣の確立	挨拶や時間、整容、正しい言葉遣い、社会ルールなどの遵守 特別指導件数の20%改善	登校指導やHR、授業などでの規範意識を育む指導や全校集会での道徳講話及び、交通教室の開催	C	生徒は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っているが、特別指導件数は45%増である。
		生徒指導方針の共有	生徒指導方針に則った指導の実施	職員研修等による生徒指導方針の周知と職員間の連携	B	学校評価アンケート(職員)2.93(+0.19)さらに周知徹底する。
	中退者対策	学校生活への適応	学校生活満足率3項目80%以上	人間関係スキルアップトレーニングの実施 宿泊研修の実施	B	学校生活満足度 全般86.1 交友91.5 自尊66.3。自尊感情を助長する取組みの実施する。
		細やかな指導の確立	個々の生徒の実態把握	QUテスト、Σ検査、いじめアンケート、自己肯定感アンケート等の活用。 面談週間、新たな絆をつくる面談の実施	A	具体的な手立てを実施したことにより、生徒実態を相当把握できた。
部活動の活性化	意欲的な活動と活動を通じた自信と自己肯定感の高揚	生徒アンケート「部活動に入部し、積極的に活動している」の評価ポイント2.77以上	自主的・自発的な活動を支えるための環境づくりと事故やトラブルの未然防止の徹底 部活動の精選	B	アンケート結果 2.71 2年生の中弛みを小さくする活動内容や語りかけが必要である。	
人権教育の推進	自他の良さを認めあえる人間関係の育成	人権意識の啓発	生徒や保護者、職員の人権意識の向上	外部研修各自2つ以上参加を徹底 PTAや関係機関と協力した校内研修の充実 人権教育講演会の実施	C	ほぼ全員の先生方に、2つ以上の研修に参加していただいた。しかし予算の関係で希望通りにいかないこともあり、対象研修のリストアップに課題が残った。
	推進体制の確立と研修の充実	教職員の実践的指導力の向上	LHRにおける人権教育の充実	推進委員会と各学年担当の連携強化による人権LHRの充実	B	昨年から進めた人権LHRの改善において、ワークシート等の次年度利用がしやすくなった。
	命を大切に する心を育む指導	自他の生命を尊重する心と自尊感情の育成	自己実現に向けた意識向上と達成に向けた取組み支援	生徒指導部及び教育相談・支援部と連携し、自尊感情を高める授業を展開	B	生徒指導部との合同研修が実施できたので、内容の改善を図っていきたい。

いじめの防止等	いじめの防止	年間指導計画の改善	年間指導計画を検証し見直す	いじめ防止対策委員会を経て、現状に即した具体的な活動計画を作成	A	年間指導計画を見直し、具体的な行動をとることができた。
		未然防止に向けた日常的取組	日常の学校生活における未然防止の徹底	「いじめ防止基本方針」に沿った全教職員の共通理解と同一歩調での取組 ストレス対応プログラムに準じたLHRの公開授業実施	A	研修を通して職員が共通理解を持つことができた。ソーシャルスキルトレーニングを目的としたLHRの公開授業が実施できた。
			学期、年度ごとの検証	取組状況を学期、年度ごとに検証し、次学期や次年度に活かす	A	各学期いじめ対策委員会を実施し、事案について検証することができた。
			校内研修の実施	いじめアンケートやQ-U、シグマを活用した状況把握といじめ未然防止に向けた研修の実施	A	各学期、アンケート等を複数回実施し、生徒状況を把握することができた。また、各学期職員研修を実施できた。
			早期発見・早期対応	いじめに関する実態調査	いじめアンケート及び心のアンケートを活用した早期発見と迅速な対応 新たな絆をつくる面談の実施	B
地域連携 (コミュニティスクールなど)	特色ある学校づくり	八農版防災型コミュニティスクールの導入	防災・避難所機能の強化 防災・復興教育の推進	学校運営協議会による防災マニュアルの完成 合同防災訓練の実施	A	八農版防災マニュアルを完成させることができた。地域と連携した防災(地震・津波)避難訓練を実施することができた。
道徳教育	道徳性の涵養	全体計画にもとづく教育活動の推進	学校行事等を通じた愛校心、愛郷心の高揚 自己肯定観の深化 道徳性を涵養するホームルーム活動や授業の展開	校内、校外において本校生としての自覚を育成する指導の充実 実学を通じたスペシャリストとしての自覚と責任感の育成 学校生活への満足度や愛校心が高まる指導の展開 全校集会(定期)の実施	C	学校行事にしっかりと取り組むことができた。SSTを全クラスで実施し、自分の言動について振り返る機会となった。全校集会も各月計画的に実施できた。しかし、校外での生活の様子から道徳性の涵養までは至っていない。自己肯定感が低い生徒が多いため継続的取り組みが必要である。
特別支援教育	特別な支援を要する生徒のニーズへの対応	組織的な支援計画及び指導計画の作成と確実な支援の実施及び評価	個別の指導計画作成率 100 % 学びのUD化チェック表達成率 100 %	定例委員会の確実な実施 職員研修の実施と学期ごとのチェック表による評価の実施	B	個別の指導計画作成率、学びのUD化チェック表ともに100%に達しなかった。しかし、活動については、積極的に取り組むことができた。
環境教育	環境調和型社会の実現及び校内美化の推進	環境保全活動や学校版環境ISO、校内美化、地域ボランティア活動	環境保全活動の重要性の周知 学校版ISOの宣言項目達成 校内美化の徹底 地域ボランティア活動の啓発	各科での環境保全活動の実施 宣言項目の実行 校内美化コンクールの実施 地域ボランティア活動の実施	B	校内美化コンクールやエコキャップ回収活動やゴミの分別指導を実施した。また全職員生徒を対象に掃除研修やポリッシャーでの清掃を行い意識を高めた。
保健管理	健康に関する指導体制整備	規則正しい生活習慣の確立	保健だよりを通じた基本的な健康知識の周知と各種講演会を通じた健康意識の啓発	薬物乱用防止、性教育講演会の実施 保健便りの定期発行 保健授業の活性化	B	講演会は計画に基づいて実施され、生徒の意識も向上した。保健便りを定期的に発行できた。
		保健相談の充実	保健環境部と教育相談・支援部との連携及び情報共有	毎月の来室者統計の担任配付と個別面談の実施	B	スクールカウンセラーとも連携し、必要に応じて相談し、対策を講じた。

安全管理	施設・設備の充実	施設、設備の安全の強化 危機管理意識の向上	生徒、職員が安心・安全に過ごせる学校づくり 不測の事態に対応できる学校づくり	学期毎に安全点検を実施 校舎内外の巡回を実施	B	定期的な安全点検を職員全員で行った。また生徒からも意見をとり、安全点検の精度を高めた。
専門教育	専門教育の充実	魅力ある学科づくり	農業クラブ、家庭クラブ活動の活性化 学習活動の積極的な発信 生徒の学習満足度の向上	各種競技会やイベントへの積極的な参加 各学科HPブログの毎週更新 研究指定事業によるアンケート実施	A	校外活動に月1回以上参加し、学校PRを行った。HPは、月1,000アクセス以上の閲覧を達成した。事業を通じて精度の高いアンケートが実施できた。
	高い専門性と職業観の育成	専門性を向上と将来を見据えた系統的な学習展開	全資格において合格率前年比10%向上 専門性、職業観を高める学習活動の充実	資格取得指導の充実と生徒の意欲喚起 全学年における先進地視察や講師招聘授業の実施	B	資格取得は前年と同程度であり、指導方法の改善を図りたい。全学年において視察研修や講師招聘授業を実施できた。

4 学校関係者評価

- 評価された点
 - ・ 八農祭の催しは、とても良かったと思う。
 - ・ 現状にとっても満足している。今後もより良い学校であって欲しいと思う。
 - ・ 生徒がよい表情で挨拶してくれて気持ちいい。挨拶のできる学校が地域から評価されていく。
 - ・ 八農は農業高校として存続されている。新聞・テレビなどにおいても知名度は高い。
- 課題として指摘された点
 - ・ 体育大会が全体的に大人しく盛り上がりには欠けた感じがした。熱中症予防対策は必要だが、走る距離を伸ばすなどの工夫が欲しい。
 - ・ 部活動の活性化を図って欲しい。
 - ・ 保護者同士が交流する場を増やし、学校の発展につなげていって欲しい。
 - ・ 八農生の頑張りをもっとアピールして欲しい。生徒や先生方の頑張りがあまり知られていない。
 - ・ 農家人口が少なくなっていく、農業高校への進学も少なくなっている。魅力がないわけではないので、農業と地域、八農との連携をとる必要がある。
 - ・ 生徒たちが共通の課題を話し合う場を設けて欲しい。
 - ・ い草刈りで余ったい草が生のまま置いてあった。八代の特産物であり地域の看板である。い草の価値ともったいないということを生徒たちに教えていただきたい。
 - ・ 5～10分の昼寝を取り入れてはどうか。午後からのパフォーマンスが上がるのではないかな。
 - ・ 昼食の販売がパンだけである。お弁当の販売を行う仕組みを作ってもらいたい。
 - ・ 専門家による講演を聞く機会を増やして欲しい。

5 総合評価

本年度の学校教育目標から7つの重点目標を掲げた。各重点目標の評価は次のとおりである。

- ① すべての教育活動における、課題解決の推進と危機管理の徹底

昨年度末に課題として示した定員の確保については、同窓会やPTAとも連携しPR活動に取り組んだ。しかし、昨年を上回る志願者は確保できたものの定員確保までには至っていない。学校生活への適応指導についても多様な生徒が在籍する中、教育相談・支援部を中心に担任をサポートしながら、組織的な対応に取り組んだが不適応の解消には至っていない。この他、研究授業やソーシャルスキルトレーニングの公開授業、課題解決に向けた校内外での各種研修など、教職員一人ひとりのスキルアップにも取り組んだ。保護者アンケートからは学校改善主要3項目である「落ち着いたよい学校(81.5%)」、「指導力が高い(70.1%)」、「着実に改善(70.4%)」と概ね高い評価をいただいた。

危機管理については、学期毎の安全点検と改修、防災・防火避難訓練を行ったほか、薬物乱用防止講演会や性教育講演会の開催、登校指導を含めた交通安全指導にも取り組んだ。今後も危機管理を徹底させていきたい。
- ② 魅力ある生徒、魅力ある学科、魅力ある学校に向けた取組の推進とその発信

各学科とも関係機関と連携を図りながら専門講師の招へいを行うとともに、近隣の小中学校等との交流学習に取り組んだ。学校農業クラブ全国大会では、今年度も8名が出場し全競技で入賞を果たしたほか、プロジェクト発表では九州大会で優秀賞を受賞した。また、地域イベントや地域ボランティア活動等へも積極的に参加することができた。しかし、専門学習における校外活動は生徒の達成感も大きいのが、休日参加が中心となるため、回数が多くなると生徒職員ともに負担感が大きくなる。学習内容に沿ったイベントへの参加は重視しつつ、参加イベントを精選する必要もある。

学校行事や各学科の取り組みの発信については、中学校説明会で紹介したり、学校ホームページや地域回覧板などの広報媒体を活用した公開にも積極的に取り組んだ。ホームページの閲覧数は月平均1,000アクセスを達成することができた。しかし、各学科週1回以上のブログ更新ができなかったほか、学校評価アンケートの保護者でも「学校の特色が地域などに周知されている」の問いへのプラス評価が60%と最も低い結果となった。ブログの更新回数を増やすとともに、ページの構

成についても改善が必要である。

- ③ いじめ、差別のない学校づくり
生徒たちは概ね落ち着いた学校生活を送っている。学期毎のいじめアンケート調査やQ Uテスト、Σ検査のほか面談週間等を通して生徒やクラスの状況把握に努めることで、いじめの早期発見と早期対応につなげている。ソーシャルスキルトレーニングの公開LHRやいじめ対策に関する職員研修も開催し、職員のスキルアップにも努めた。また、月毎に登校指導や全校集会を行い、規範意識の醸成にも取り組んだ。しかし、学校評価アンケート調査の結果、いじめ等への組織的・計画的な取り組みに対し職員の評価はプラス評価 90 %前後と高かったが、生徒たちは 60 %前後と低い結果となった。
- ④ 特別な支援を要する生徒への支援体制の構築と取組の推進
昨年度から教育相談・支援部を設け、組織的な支援にも取り組んでいる。中学校からの引き継ぎや入学前からの希望保護者との面談、保護者の気づきシートの導入、本校独自の「心のアンケート」の実施等で、より細やかな状況把握と組織的支援が可能となった。また、LHRにおいてアサーションやアンガーマネジメントなどソーシャルスキルトレーニングを実施したほか、校内ユニバーサルデザイン化に向けた教職員校内研修と八農統一ルールの実施に取り組んだ。学力保障については学年や関係分掌と連携し、個別の学習会を実施したほか、本校自作教材「一日一善」の活用や早期からの進路意識の向上を目指した。しかし、支援を要する生徒が増加傾向にあり、ニーズに対する対応が難しい状況も見られる。情報活用方法や組織的な支援方法をさらに改善する必要がある。
- ⑤ 教職員全員の協力による研究指定校としての充実した取組
教育課程研究指定、就職支援研究指定の2つの研究指定校として組織的な取り組みを展開した。いずれの指定も2年目であり、本年度が最終まとめの年であった。
教育課程研究指定は、将来の地域を支えるスペシャリストを育成するための系統的な農業学習の展開について、思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導の方法とルーブリックやポートフォリオ等学習評価、系統性を高めた農業学習の展開等について研究を行った。12月8日には研究協議会を実施し、県内農業関係高校及び関係機関をはじめ、三重、鹿児島、佐賀、宮崎の農業関係高校を含めた45名に参加いただき、本校の農業教育及び評価のあり方について、文部科学省や県高校教育課から高い評価をいただくことができた。また、沖縄や群馬の農業高校からの視察も受け入れた。研究内容は、学校ホームページへの掲載や関係会議での発表を通して発信している。
就職支援研究指定は、求人企業の開拓のほか面談指導や生徒情報の共有化など組織的指導体制の構築に取り組んだ。また、ジョブカフェによる面談指導や生徒情報共有による講話など関係機関との連携にも取り組んだ。県内求人も含めて昨年以上の求人があり、進路決定率は今年も100%であった。しかし、就職希望者が70%、その内地元就労が80~90%という状況を考えると、地元企業の求人開拓を更に進めていく必要がある。
- ⑥ 掃除や整理整頓が行き届いたきれいな学校づくり
環境美化意識を高めるため、全職員生徒を対象に掃除研修をDVDの映像を交えながら行った。また、大掃除や日常の清掃活動の中でメラニンスポンジやポリッシャーを用いて掃除効果を高めた。安全点検も今年度は生徒からの危険箇所の確認も行い、挙げられた箇所についてはその都度対応した。環境委員による美化コンクールやゴミ分別指導では、日頃からの整理整頓を意識付けるきっかけとなった。しかし、学校評価アンケートの掃除や整理整頓に関する問いでは、保護者はプラス評価が87%であったが、生徒71%、職員66%と低い結果となった。さらに環境美化に対する意識を向上させるための取組が必要がある。
- ⑦ 校務（事務）処理の効率化の推進
校内ネットワークを活用した文書の共有化や文書のやり取り等の効率化を図っている。また、文書だけでなく、行事予定やデジタル写真を一括管理することで、誰もが必要なときに活用できるようにしている。八農メールは、職員、生徒、保護者が登録し、一斉に連絡事項を流すことができ、連絡に要する労力を大幅に削減することができている。今年からは、隔日朝会（月・水・金）にも取り組み、会議回数もできる限り減らすようにしている。さらに会議・研修や部活動の見直し、整理整頓の徹底を推進するなど、一層の効率化を進めていきたい。

なお、自己評価総括表でC 評価の項目に関しては、次年度改善に向けて取り組んでいく。

6 次年度への課題・改善方策

次に挙げる本年度、十分には達成できなかった項目などの課題改善に重点的に取り組みたい。

- ① 募集定員の確保
同窓会やPTAとも連携し、新聞折り込みやホームページ等でのPRを行ったほか、八農応援隊や八農祭に伴う学習成果見学会、PTA新聞の地域への回覧、八農の今と未来を語る会、新入生アンケート調査など募集活動に取り組んだ。志願者数は昨年より増加したが、定員確保までには至っていない。今後も同窓会やPTAとの連携を図り、定員確保に努めていく。
- ② 自尊感情や自己肯定感の涵養
本校でも自尊感情や自己肯定感の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、規範意識の低下、コミュニケーション能力の低下などが見られる。卒業後、7割の生徒たちが就職し社会へ単立つ状況からも生徒たちに自分の良さを気付かせ、自信を付けさせることや他者と積極的にかかわり豊かな人間関係を築く力を育成することは重要な課題である。学校行事や部活動、学び直しも含めた学習指導などを通して生徒一人ひとりが自分に自信をもち、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲を高めるための指導の工夫が必要である。